

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3145839号
(U3145839)

(45) 発行日 平成20年10月23日(2008.10.23)

(24) 登録日 平成20年10月1日(2008.10.1)

(51) Int.Cl.
A 4 7 C 21/06 (2006.01) F 1
A 4 7 C 21/06 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2008-5565 (U2008-5565)
(22) 出願日 平成20年8月8日(2008.8.8)(73) 実用新案権者 508242506
株式会社丸一家具
福岡県大川市大字三丸1416-3
(74) 代理人 100085327
弁理士 梶原 克彦
(72) 考案者 犬丸 眞治
福岡県大川市大字三丸1416-3 株式
会社丸一家具 内

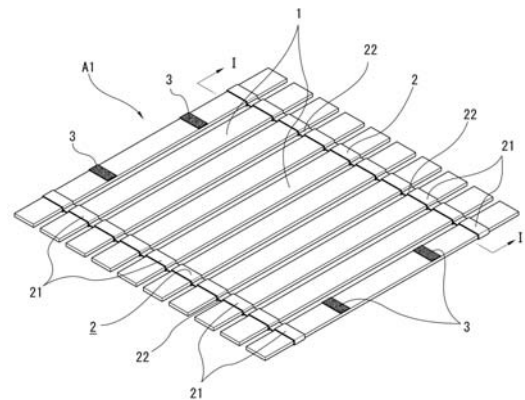
(54) 【考案の名称】 ベッド用簀子

(57) 【要約】

【課題】 ベッドの床部となる簀子を日干しや陰干しにするために持ち運ぶ際に、嵩張らないように丸めることができ、持ち運びがしやすく干しやすいベッド用簀子を提供する。

【解決手段】 ベッド用簀子(A1)はベッドの床部として使用するものであって、所要数の桐製の細板状の支持部材(1)と、支持部材(1)をその幅方向へ所要間隔をおいて繋ぐ柔軟性または撓み性を有する合成樹脂製の所要数の繋ぎ部材(2)を備えている。各繋ぎ部材(2)は、支持部材(1)に嵌め入れることができる所要数の環部(21)を連結部(22)で連結して形成されている。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

ベッドの床部として使用するベッド用簀子であって、
所要数の支持部材(1)と、
各支持部材(1)をその幅方向へ所要間隔をおいて繋ぐ柔軟性または撓み性を有する所要数の繋ぎ部材(2)と、
を備えており、
各繋ぎ部材(2)は、支持部材(1)に嵌め入れることができる所要数の環部(21)を連結部(22)で連結した構造である、
ベッド用簀子。

10

【請求項 2】

ベッドの床部として使用するベッド用簀子であって、
所要数の支持部材(1)と、
各支持部材(1)をその幅方向へ所要間隔をおいて繋ぐ柔軟性または撓み性を有する所要数の繋ぎ部材(2a)と、
を備えており、
各繋ぎ部材(2a)は、支持部材(1)に嵌め入れることができる所要数の環部(21a)を連結部(22a)で連結した構造であり、
連結部(22a)は、各環部(21a)を支持部材(1)に嵌め入れたときに、支持部材(1)の厚み方向の一端側に揃って位置するようにしてある、
ベッド用簀子。

20

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、ベッド用簀子に関するものである。更に詳しくは、ベッドの床部として使用するベッド用簀子であって、例えば簀子を日干しや陰干しにするために持ち運ぶ際に嵩張らないように丸めることができ、持ち運びがしやすく干しやすくしたものに關する。

【背景技術】

【0002】

ベッドには様々な構造のものがある。両側枠の内側に、簀子状の床部を有し、その上に布団やマットレスを載せるタイプのベッドもそのひとつである。簀子状の床部は両側枠から取り外せるようになっている。このような、床部が簀子状で、床部を取り外すことができるベッドとしては、例えば特許文献1記載のベッドがある。

30

【0003】

特許文献1に記載のベッドは、ベッド本体を形成するヘッドボード、フットボード及び側板の各内側に支持部材を周設し、外側板に固設した支持部材の中央部には補強棧を横架するとともに、支持部材の中央部の左右対称的にV字溝を設け、この支持部材上に載置する上方に折曲可能なように中央部をヒンジで接続した簀子状床板を載置した構造であり、簀子状床板を上方へ折り曲げて両端部を各V字溝に係合させて山形にして立てることにより、ベッド上での布団干しができるというものである。

40

【0004】

【特許文献1】特開2005-52616

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

前記従来のベッドは、使用時においては、床部の上には布団やマットレスが載っているので通気が十分でなく、床部には黴が生じやすい。黴の発生を防ぐためには、布団と同様に定期的に床部を干すのが好ましいが、前記のように室内で干しても日干しや陰干しに比べて十分とはいえない。

床部を日干しや陰干しにするためには、床部を取り外して屋外等へ運ぶ必要がある。し

50

かしながら、前記床部は中央部から折り畳むことはできても、その大きさはシングルベッドの場合で広さが半畳ほどの四角形の外形を有しており、嵩張るため持ち運びがしにくい課題があった。

【0006】

(本考案の目的)

本考案は、ベッドの床部として使用するベッド用簀子であって、例えばベッドの床部となる簀子を日干しや陰干しにするために持ち運ぶ際に、嵩張らないように丸めることができ、持ち運びがしやすく干しやすいくベッド用簀子を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するために本考案が講じた手段は次のとおりである。

本考案は、

ベッドの床部として使用するベッド用簀子であって、

所要数の支持部材と、

各支持部材をその幅方向へ所要間隔をおいて繋ぐ柔軟性または撓み性を有する所要数の繋ぎ部材と、

を備えており、

各繋ぎ部材は、支持部材に嵌め入れることができる所要数の環部を連結部で連結した構造である、

ベッド用簀子である。

【0008】

本考案は、

ベッドの床部として使用するベッド用簀子であって、

所要数の支持部材と、

各支持部材をその幅方向へ所要間隔をおいて繋ぐ柔軟性または撓み性を有する所要数の繋ぎ部材と、

を備えており、

各繋ぎ部材は、支持部材に嵌め入れることができる所要数の環部を連結部で連結した構造であり、

連結部は、各環部を支持部材に嵌め入れたときに、支持部材の厚み方向の一端側に揃って位置するようにしてある、

ベッド用簀子である。

【0009】

支持部材の材質は、例えば無垢の木材、集成材等であるが、これらに限定するものではない。また、支持部材の形状は、例えば細長い板状であるが、断面形状が四角形でない異形状の棒状等であるが、これらに限定するものではない。

【0010】

繋ぎ部材の数は、例えば支持部材の長さ方向の両端寄りに位置する二本であるが、これに限定するものではなく、それ以上でもよい。

また、繋ぎ部材の材質は、例えば合成樹脂の他、綿糸等で織成された帯紐状のもの等であるが、これらに限定するものではない。

【0011】

(作用)

本考案に係るベッド用簀子の作用を説明する。なお、ここでは、説明で使用する各構成要件に、後述する実施の形態において各部に付与した符号を対応させて付与するが、この符号は、実用新案登録請求の範囲の各請求項に記載した符号と同様に、あくまで内容の理解を容易にするためであって、各構成要件の意味を上記各部に限定するものではない。

【0012】

ベッド用簀子の各支持部材(1)は、所要数の繋ぎ部材(2)によって、幅方向へ所要間隔をおいて繋がれており、繋ぎ部材(2)は柔軟性または撓み性を有している。

10

20

30

40

50

この構造により、ベッド用簀子は各支持部材(1)を各繋ぎ部材(2)により所要の間隔をおいてつないだまま繋ぎ部材(2)を小さく曲げて丸めることができる。このように丸めた状態のベッド用簀子は、嵩張らず持ち運びがしやすい。また、転がせば簡単に広げることができる等、日干しや陰干しするときも取り扱いが容易にできる。

【0013】

また、各支持部材(1)は、各繋ぎ部材(2)から個別に取り外すことができ、同様に取り付けもできる。これにより、例えば支持部材(1)のうち一本または何本かが変形したり折れたり、あるいは傷が生じる等が原因で交換が必要になった場合、必要な数だけ交換することができ、ベッド用簀子を丸ごと交換する場合と比較して材料または資源の無駄を省くことができる。

10

【0014】

連結部(22a)が、各環部(21a)を支持部材(1)に嵌め入れたときに、支持部材(1)の厚み方向の一端側に揃って位置するようにしてあるベッド用簀子は、ベッド用簀子を丸めるときに連結部(22a)を内側に巻き込むようにして繋ぎ部材(2a)を丸めると、各環部(21a)の角部同士が当たらないので、巻きの径をより小さくして丸めることができる。

【考案の効果】

【0015】

(a) 本考案に係るベッド用簀子は、各支持部材を各繋ぎ部材により所要の間隔をおいてつないだまま繋ぎ部材を小さく曲げて丸めることができる。このように丸めた状態のベッド用簀子は、嵩張らず持ち運びがしやすい。また、転がせば簡単に広げることができる等、日干しや陰干しするときも取り扱いが容易にできる。

20

【0016】

(b) 各支持部材は、各繋ぎ部材から個別に取り外すことができ、同様に取り付けもできるので、支持部材のうち一本または何本かが変形したり折れたり、あるいは傷が生じる等が原因で交換が必要になった場合、必要な数だけ交換することができ、ベッド用簀子を丸ごと交換する場合と比較して材料または資源の無駄を省くことができる。

【0017】

(c) 連結部が、各環部を支持部材に嵌め入れたときに、支持部材の厚み方向の一端側に揃って位置するようにしてあるベッド用簀子は、ベッド用簀子を丸めるときに連結部を内側に巻き込むようにして繋ぎ部材を丸めると、各環部の角部同士が当たらないので、巻きの径を小さくして、よりコンパクトに丸めることができる。

30

【考案を実施するための最良の形態】

【0018】

本考案を図面に示した実施例に基づき詳細に説明する。

〔実施の形態〕

【0019】

図1は本考案に係るベッド用簀子の一実施の形態の使い方を示す分解斜視説明図、

図2はベッド用簀子を丸めた状態を示す斜視図、

図3はベッド用簀子を裏側からみた斜視図、

図4は図3におけるI-I部分拡大断面図である。

40

【0020】

ベッド用簀子A1は、図1に示すように二枚一組で使用する大きさ(本実施の形態ではシングルベッドなので半畳程の大きさ)に形成されている。

ベッド用簀子A1は、10枚の細い長方形の板体である支持部材1を二本の繋ぎ部材2によって一定の間隔で連結した構造である。支持部材1は桐製であり、軽量かつ十分な強度を有すると共に優れた吸排湿性能を有している。

【0021】

繋ぎ部材2は、柔軟性を有する合成樹脂製である。繋ぎ部材2は、支持部材1の長さ方向の両端部に嵌め入れることができる10個の環部21を連結部22で連結した構造である。環部21は、支持部材1にややきつく嵌め入れることができるような大きさに形成さ

50

れている。連結部 2 2 は、環部 2 1 を支持部材 1 に嵌め入れたときに、環部 2 1 において支持部材 1 の厚さの中間部にあたる部分同士を連結している（図 3、図 4 参照）。

【0022】

支持部材 1 において、繋ぎ方向の両端部に位置する各支持部材 1 の下面側には、それぞれ二箇所面に面ファスナー（タッチ・クローズ型のファスナー）3 が接着等により固定されている。なお、面ファスナー 3 と止着する面ファスナー 4 1 は、後述する簀子ベッド B 1 の支持側の簀子 4、4 の合計八箇所に固定されている（図 1 参照）。

【0023】

（作用）

図 1 ないし図 4 を参照して本実施の形態のベッド用簀子 A 1 の使い方及び作用を説明する。簀子ベッド B 1 は、ヘッドボード 5、フットボード 6、側板 7、7 を有し、側板 7、7 の内側に設けられている受け部材 7 1、7 1 に二枚の簀子 4、4 を載置した構造を有している。

【0024】

ベッド用簀子 A 1 は、図 1 に示すように簀子ベッド B 1 の簀子 4、4 の上に二枚並べて載置する。このとき、簀子 4、4 の各面ファスナー 4 1 と各ベッド用簀子 A 1 の各面ファスナー 3 を止着してベッド用簀子 A 1 が動かないようにする。なお、簀子 4、4 の支持部材 4 2 と、ベッド用簀子 A 1 の支持部材 1 の方向は直角に交差ししており、通気がしやすいようにしてある。

【0025】

ベッド用簀子 A 1 の各支持部材 1 は、所要数の繋ぎ部材 2 によって、幅方向へ所要間隔をおいて繋がれており、繋ぎ部材 2 は柔軟性または撓み性を有している。

この構造により、ベッド用簀子 A 1 は各支持部材 1 を各繋ぎ部材 2 により所要の間隔をおいてつないだまま繋ぎ部材 2 を小さく曲げて丸めることができる。このように丸めた状態のベッド用簀子 A 1（図 2 参照）は、嵩張らず持ち運びがしやすい。また、図 2 に示す状態から転がせば簡単に広げることができるので、日干しや陰干しするときも取り扱いが容易にできる。

【0026】

また、各支持部材 1 は、各繋ぎ部材 2 から個別に取り外すことができ、同様に取り付けもできる。これにより、例えば支持部材 1 のうち一本または何本かが変形したり折れたり、あるいは傷が生じる等が原因で交換が必要になった場合、必要な数だけ交換することができ、ベッド用簀子を丸ごと交換する場合と比較して材料または資源の無駄を省くことができる。

【0027】

なお、ベッド用簀子 A 1 と支持側の簀子 4、4 の間に、例えば各繋ぎ部材 2 の環部 2 1 の肉厚を厚く形成する等して隙間を設ければ、電気毛布等の温熱器を収容することによって、冬期の暖房（布団の暖め）に利用できる。

【0028】

図 5 は本考案に係るベッド用簀子の他の実施の形態の使い方を示す分解斜視説明図、

図 6 はベッド用簀子を丸めた状態を示す斜視図、

図 7 はベッド用簀子を裏側からみた斜視図、

図 8 は図 7 における I I - I I 部分を反転して拡大した部分断面図である。

【0029】

なお、本実施の形態では、図面において前記ベッド用簀子 A 1 と同等箇所には同一符号または同一符号に「a」を付与した符号を付して示し、構造について重複する説明は基本的に省略する。

【0030】

簀子ベッド B 2 は、ヘッドボード 5、フットボード 6、側板 7、7 を有し、側板 7、7 の内側に設けられている受け部材 7 1、7 1 に一枚の簀子 4 a を載置した構造を有している。ベッド用簀子 A 2 は前記ベッド用簀子 A 1 の 2 倍の大きさであり、図 5 に示すように

簀子ベッド B 2 の簀子 4 a の上に一枚載置する。なお、簀子 4 a の支持部材 4 2 とベッド用簀子 A 2 の支持部材 1 の方向は直角に交差しており、通気がしやすいようにしてある。

【0031】

ベッド用簀子 A 2 は、連結部 2 2 a が、各環部 2 1 a を支持部材 1 に嵌め入れたときに、支持部材 1 の厚み方向の一端側に揃って位置するようにしてある（図 7、図 8 参照）。

これにより、ベッド用簀子 A 2 は、丸めるときに連結部 2 2 a を内側に巻き込むようにして繋ぎ部材 2 a を丸めると、各環部 2 1 a の角部同士が当たらないので、巻きの径を小さくしてよりコンパクトに丸めることができる。

【0032】

なお、本明細書で使用している用語と表現は、あくまでも説明上のものであって、なんら限定的なものではなく、本明細書に記述された特徴およびその一部と等価の用語や表現を除外する意図はない。また、本考案の技術思想の範囲内で、種々の変形態様が可能であるということと言うまでもない。

【図面の簡単な説明】

【0033】

【図 1】本考案に係るベッド用簀子の一実施の形態の使い方を示す分解斜視説明図。

【図 2】ベッド用簀子を丸めた状態を示す斜視図。

【図 3】ベッド用簀子を裏側からみた斜視図。

【図 4】図 3 における I - I 部分拡大断面図。

【図 5】本考案に係るベッド用簀子の他の実施の形態の使い方を示す分解斜視説明図。

【図 6】ベッド用簀子を丸めた状態を示す斜視図。

【図 7】ベッド用簀子を裏側からみた斜視図。

【図 8】図 7 における I I - I I 部分を反転して拡大した部分断面図。

【符号の説明】

【0034】

A 1 ベッド用簀子

1 支持部材

2 繋ぎ部材

2 1 環部

2 2 連結部

3 面ファスナー

B 1 簀子ベッド

4 簀子

4 1 面ファスナー

4 2 支持部材

5 ヘッドボード

6 フットボード

7 側板

7 1 受け部材

A 2 ベッド用簀子

2 a 繋ぎ部材

2 1 a 環部

2 2 a 連結部

B 2 簀子ベッド

4 a 簀子

4 2 a 支持部材

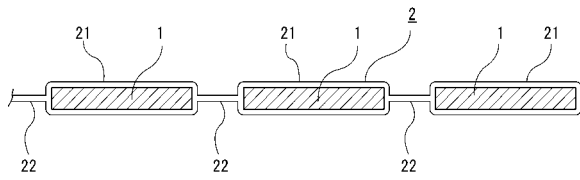
10

20

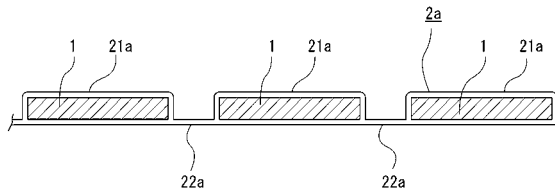
30

40

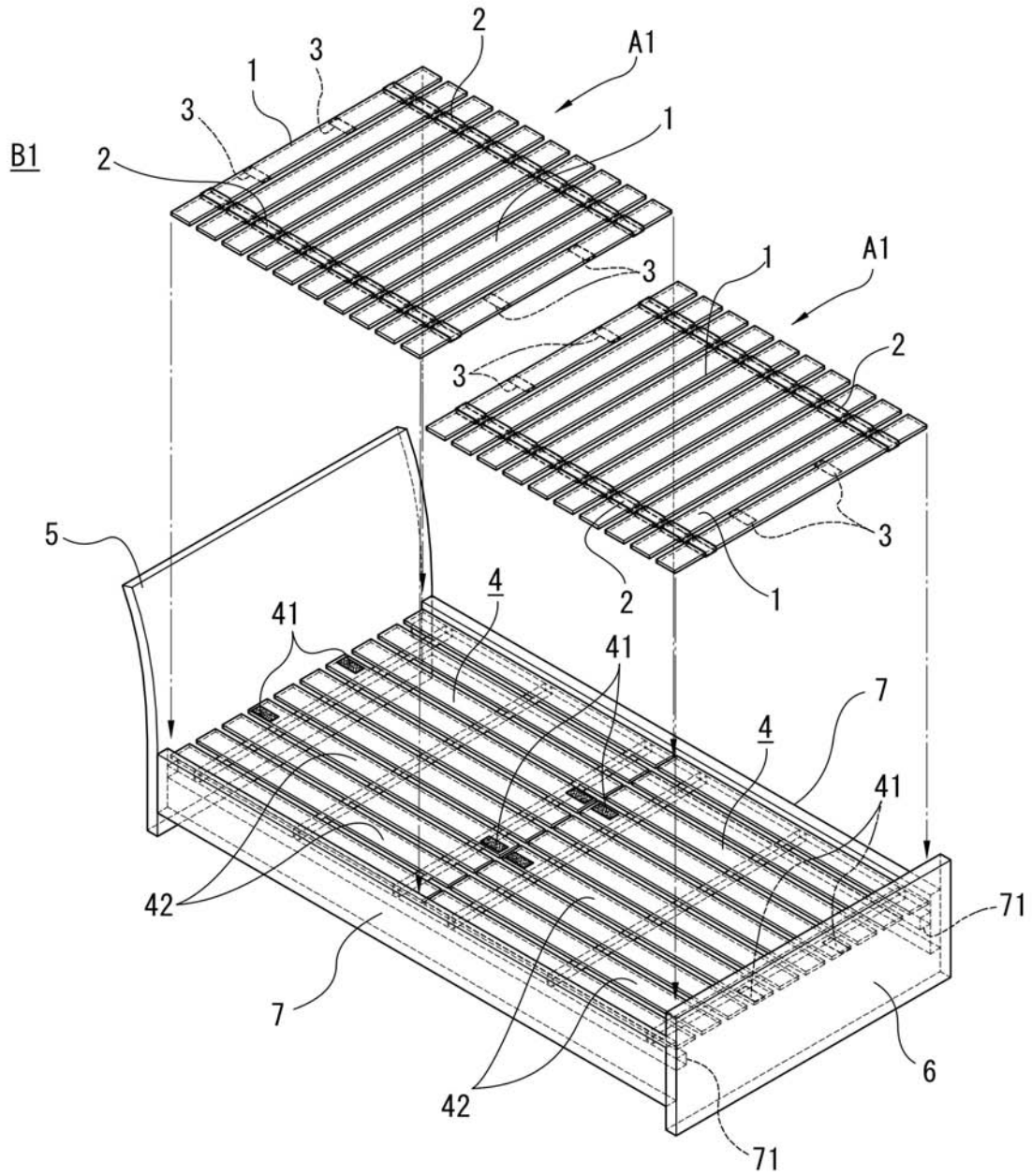
【図 4】



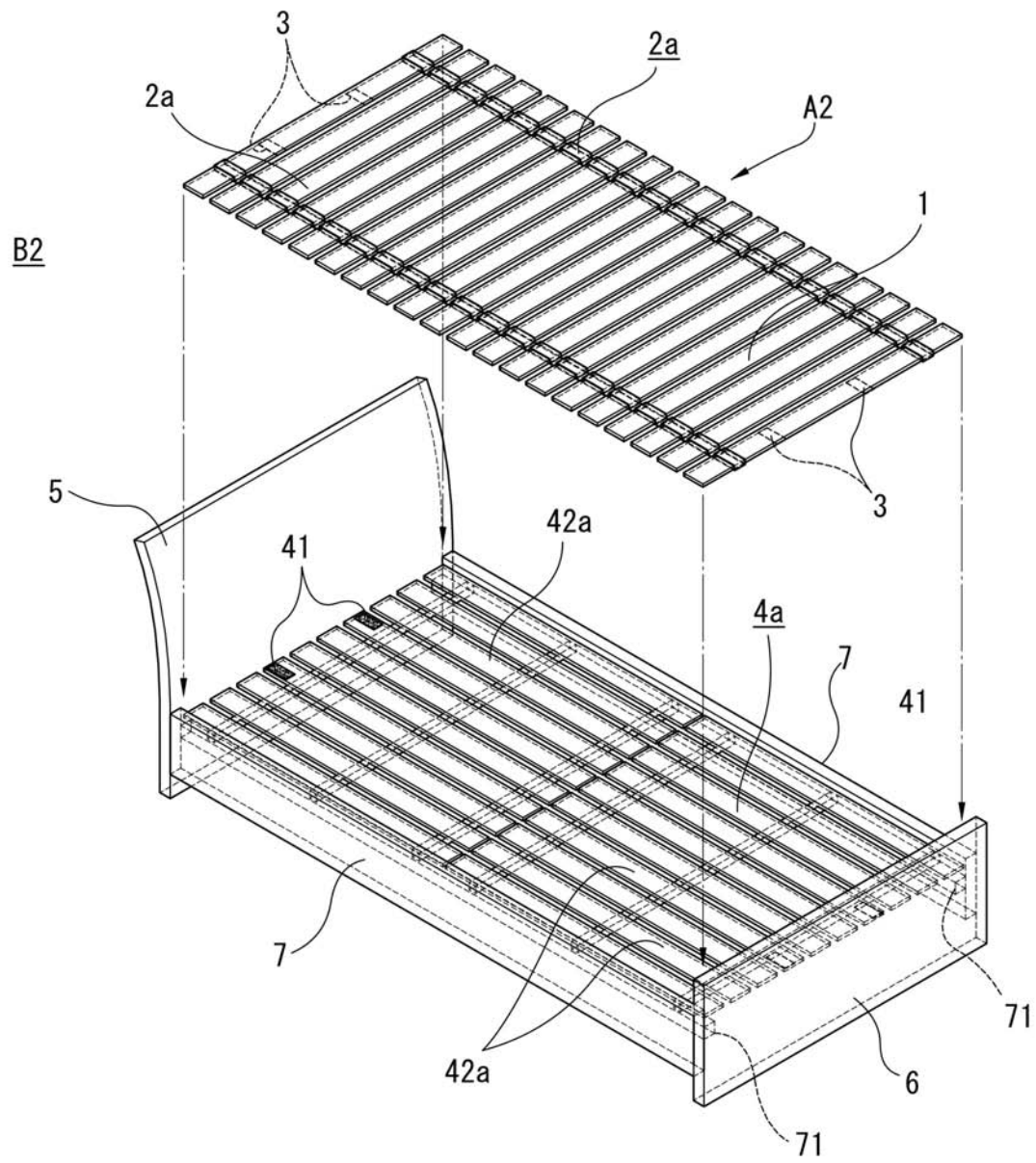
【図 8】



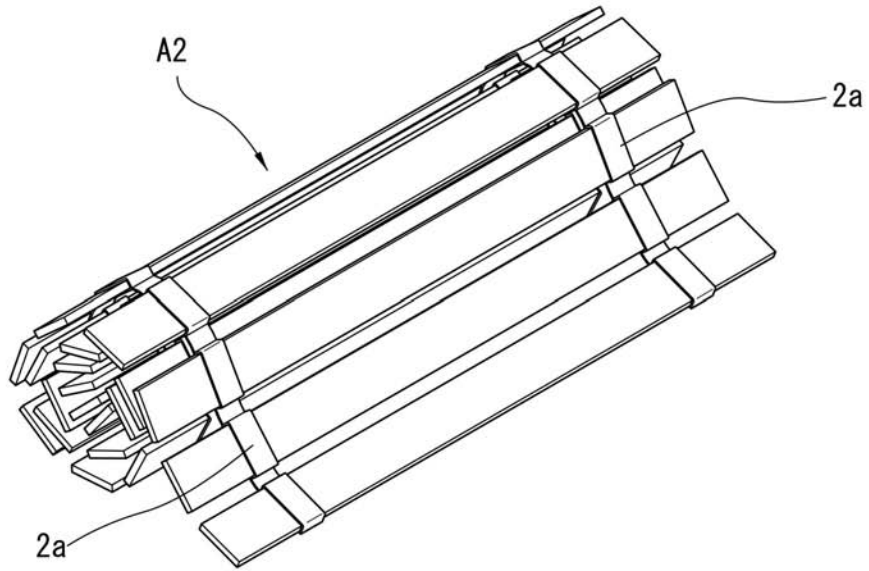
【図 1】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

